

SRA検査ランダム指示システム

ー追加検査の確実な実施を支援するDXー

セコム株式会社　ソリューション営業部　西野 剛

1．制度変更と現場の課題

① SRA検査の厳格化と新たな運用要件

2025年から、SRAへの立入時における保安検査が**厳格化**され、従来の検査に加えて、一定割合の対象者・車両に対する追加検査が求められるようになりました。

追加検査では、対象者・車両だけでなく、検査方法や検査箇所についても**ランダム性**を確保し、その実施結果を**記録**する必要があります。

② 人手による運用上の課題

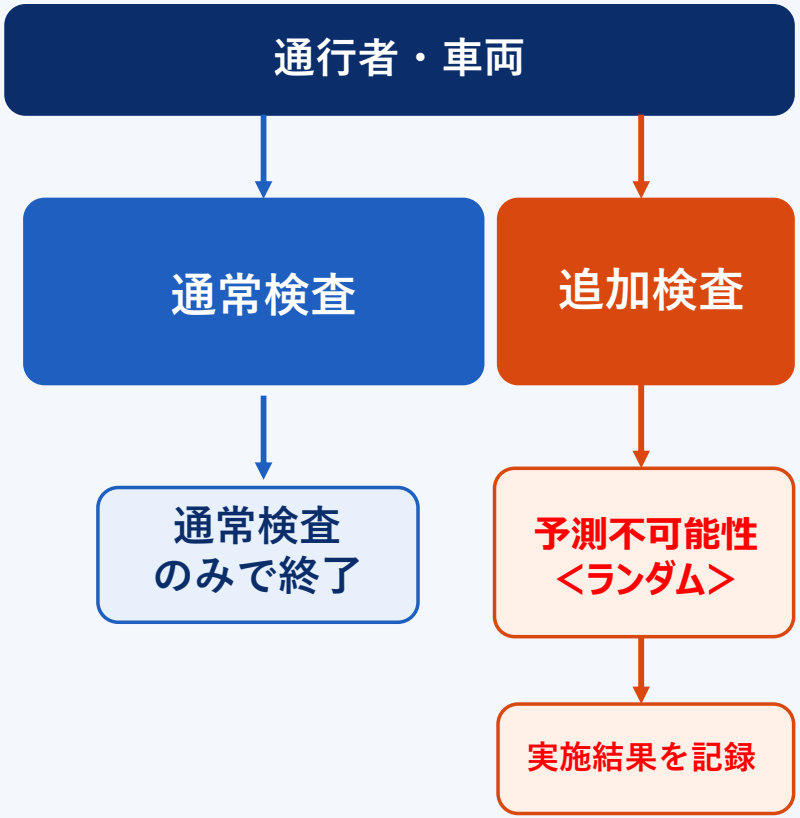
通常の検査業務と並行して、無作為抽出、検査方法・検査箇所の選択、実施結果の記録を確実に行うことは、**警備員の業務負担**を増加させます。

また、これらを**人の判断や記憶に依存して運用**することは、運用品質のばらつきにつながる恐れがあります。






追加検査の運用イメージ



2．SRA検査の運用課題とDXによる解決

追加検査では、通常の検査業務と並行して、次の三つを確実に実施する必要があります。

運用課題	システム機能
1 追加検査の対象者・車両を、一定の割合でランダムに抽出する	1 追加検査の対象者・車両のランダム抽選
2 検査方法・検査箇所をランダムに選択する	2 検査方法・検査箇所のランダム選択
3 実施結果を確実に記録する	3 実施結果の自動記録・集計

これらを人の判断や記憶に依存して運用することは、現場の負担を増加させるとともに、運用品質のばらつきにつながるおそれがあります。

そこで、抽選・指示・記録をシステムが支援する仕組みを開発しました。

・システムによる抽選実施
・警備員は抽選結果を確認して対応



警備員が、本来注力すべき本人確認、保安検査、警戒・監視に集中できる環境を整えます。

3．導入により期待される効果

効果 1

検査品質の安定化

- ランダム抽選と検査方法・検査箇所の選択をシステム化
- 警備員の判断や記憶への依存を低減
- 所定の検査手順による確実な運用を支援

効果 2

警備員の業務負担軽減

- 抽選、検査方法・検査箇所の選択、記録作業を効率化
- 警備員が本人確認、保安検査、警戒・監視に注力
- 検査場の混雑緩和と検査時間の短縮

効果 3

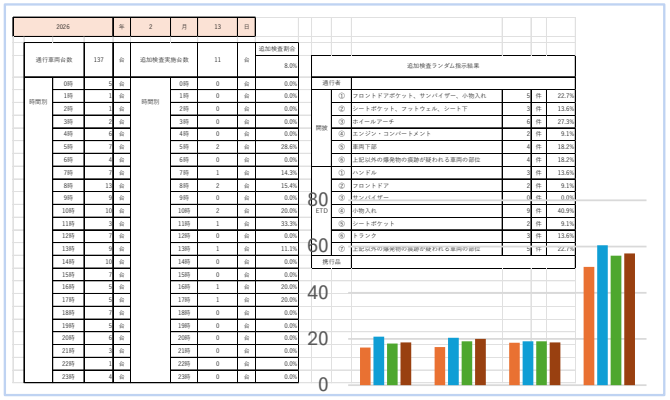
管理業務の効率化・可視化

- 検査の実施履歴を自動記録
- 集計、保存、報告作業を効率化
- 教育、監査、運用改善への活用





集計画面



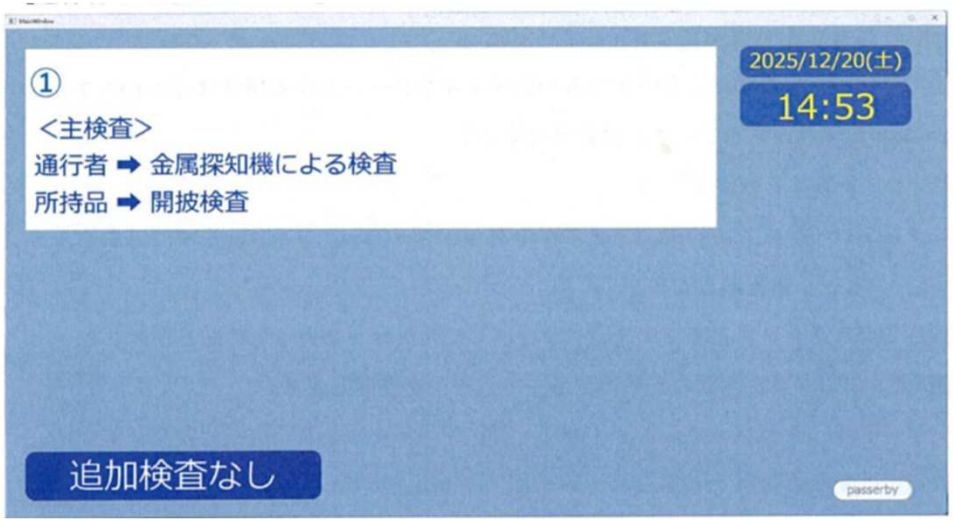
実施結果を自動的に記録・集計

４．警備員が確認する操作画面

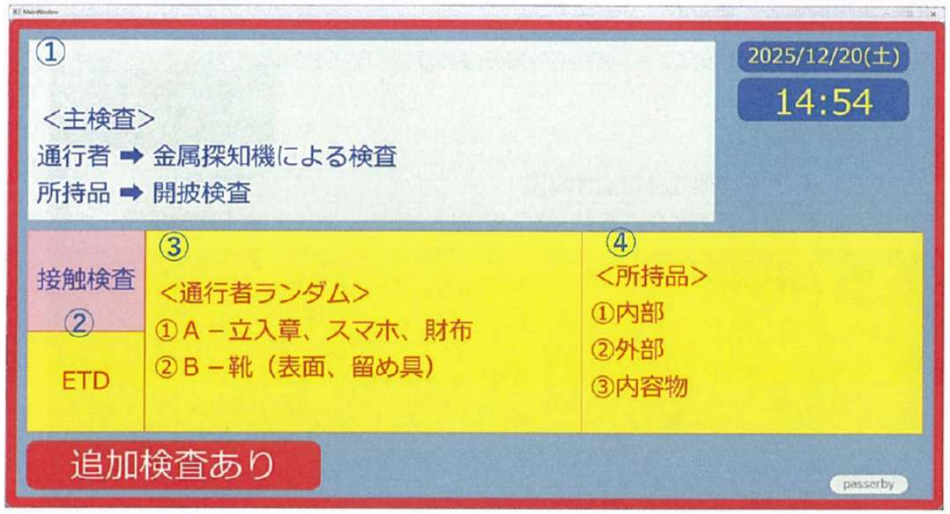
警備員は検査前に操作するだけ。
追加検査の有無と、必要な検査内容をシステムが表示します。



追加検査なし：通常の検査のみ



追加検査あり：検査方法・検査箇所を表示



5.追加検査の運用フロー

1 通行者・車両の要件確認

2 システムによるランダム抽選

3 約□□%
通常検査

終了



4 約□□%
追加検査

5 システムが検査方法を指示

6 検査を実施

7 実施結果を自動記録

警備員が行う操作はシンプルです。
追加検査の要否と検査内容は、システムが自動的に指示します。

6．空港における実証状況

- 東京国際空港
- 関西国際空港
- 中部国際空港







7．実証現場からの評価



空港運営者

- 検査実績の可視化により、監査対応や運用改善に活用できる
- 検査品質の安定化が期待できる
- 検査の円滑化により、スループット向上と混雑緩和が期待できる

警備会社

- 抽選、検査方法・検査箇所の選択、記録に伴う作業負担が軽減された
- 所定の検査手順を確実に実施しやすくなった
- 実績集計や報告資料の作成が効率化された
- 新任警備員への教育・指導を標準化しやすくなった

8. まとめ・今後の展開

システムがランダム性と記録を担い、
警備員は保安検査に集中する。

1. ランダム性の確保

対象者・車両、検査方法・検査箇所をシステムが自動選択

2. 確実な運用

担当者にかかわらず、所定の手順による検査を支援

3. 記録と可視化

実施結果を自動的に記録・集計

4. 持続可能なSRA検査

警備員の負担を抑えながら、保安水準の維持・向上に貢献

**複雑化したSRA検査を、人の判断・記憶だけに依存せず、
DXによって確実かつ持続的に運用します。**